

&lt; 認知症対応型共同生活介護用 &gt;

**評価結果報告書****地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4670900267
法人名	有限会社 さつま福祉会
事業所名	グループホーム さつま苑
訪問調査日	平成20年7月31日
評価確定日	平成20年9月24日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

**項目番号について**

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

**記入方法**

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

**用語の説明**

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 8月8 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670900267
法人名	有限会社 さつま福祉会
事業所名	グループホーム さつま苑
所在地	〒895-2442 鹿児島県大口市針持1235-8 (電話) 0995-25-2000

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOさつま
所在地	〒890-0056 鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成20年7月31日
評価確定日	平成20年9月24日

【情報提供票より】(平成20年 7月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 12月 17日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数(A棟)	9人	常勤 3人, 非常勤 6人,	常勤換算 8人
職員数(B棟)	10人	常勤 4人, 非常勤 6人,	常勤換算 7人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

### (4) 利用者の概要( 7月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	3 名	要支援2	名		
年齢	平均 85.9 歳	最低	76 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	下田医院 寺田病院 たけ歯科
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大口市郊外の国道沿いにある当ホームは同敷地内に温泉施設や民宿があり、利用者の家族、知人にとっても癒しの場となっていて、利用者との面会がてら温泉を楽しむ環境にある。地域との交流、協力体制もあり、ホームの行事に一人暮らしの高齢者を招待したり、婦人会や保育園のボランティアも多く受け入れている。ホームも温泉でいつでも入浴できる。日々、手足の運動、体操、レクリエーションを通して身体機能の維持に努め、利用者の肌つやも良く、穏やかな日々を過ごしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善計画シートに優先順位を決めて計画内容を示している。水分チェックについては一人ひとりの必要な食事、水分が取れるように支援できている。また、職員が利用者と一緒に食事を楽しむことも実践されている。利用者の尊厳と権利を守る、職員を育てる取り組みは研修の機会を増やして改善する方向性ができている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は各ユニット毎に全員で行っている。外部評価の結果も職員会議で改善対策ノートに示し、具体的に話し合い、改善に向けたサービスの向上に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	定期的に地域代表者も参加し開催している。利用者の状況、職員の教育について市役所への質問、8月の防災訓練について協力体制を整えるなど、サービス向上に向けた活発な意見交換の場になっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	日頃から利用者や家族に声かけし、何でも言ってもらえる雰囲気づくりに努めている。出された意見は職員会議などで検討し、短時間内に対応できるようにしている。運営推進会議でも報告している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の老人会、婦人部、近くの小学校、保育園児との交流がある。催し物の開催時には一人暮らしの高齢者を招待したり地域住民と一緒に沿道にコスモスを植えるなど積極的に地域と関わっている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「この家で互いにくつろぎ、互いにやすらぎ地域とふれあいのある暮らし」として、地域との絆を大事にする理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	来訪者、利用者、職員の目のつく場所に明示されている。全職員、利用者が事あるたびに唱和し、共有しながら日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年間行事計画があり、地域の老人会や近くの小学校、保育園児との交流をもっている。婦人部とともにダンベル体操や老人会とのコスモスの種まき、花見など楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を行い、外部評価の結果も改善計画シートに優先順位を掲げ、具体的に話し合い、改善に向けたサービス向上に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議が開催されホームからの報告のみならず、委員のメンバーからの質問、意見、要望について話し合っている。苦情、事故報告も行ない、アドバイスをもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村より情報をもったり、ホームの状況を報告したりして、情報の共有化を図り、サービスの課題解決や質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回定期の近況報告「文の日」を実施、郵送している。来訪時、利用者の状態報告をし、家族と共有を図っている。小口の金銭管理も家族の確認をもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より利用者、家族みんなの意見・苦情がホームの運営に欠かせない旨、話している。話しやすい雰囲気作りに配慮している。出された意見は検討し、結果を利用者、家族、運営推進委員会に報告している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員は固定し、職員、利用者、家族などとのなじみの関係を重要視したケアを心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、計画作成担当者、職員が外部研修に参加し研修内容を他の職員に報告し、質の向上を図っている。年間研修計画や新人研修が不十分である。		研修計画を掲げクリアする体制づくりが望まれる。職員の資質向上のためにも段階に応じた新人教育に十分、力を注いでもらいたい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の地域密着型事業所連絡会に加入し、学習会、交流会に参加している。利用者、職員同士の親睦を深め、サービスの向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用する前に本人、家族にホームを見学してもらい、職員と顔合わせをして信頼関係を築き、不安なく入居できるように取り組んでいる。ホーム見学できない利用者には計画作成担当者が数回、面会に行き、なじみの関係作りに努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に生活する家族としてお互いが支えあえる場面作り(掃除、趣味、座っていても出来るものなど)や声かけをしている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で利用者の思いや意向の把握に努め、ゆっくりと対話することを心がけコミュニケーションをとっている。家族からも情報収集をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の思いや希望、主治医の意見、職員の気づきや意見を出し、それらを反映した本人本意の介護計画を立てている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の定期的な見直しを行うとともに心身の状況が変化した時は随時、見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族などの状況に応じて病院受診や墓参り特別な外出など必要な支援を柔軟に行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診継続ができるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について家族へ説明し、対応を確認している。状況の変化を家族に報告、家族の意向を聞きながら主治医や職員と話し合い、方針を共有している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人格を尊重し、認知症からくる言動も利用者の個性として受け入れ、否定しないように努めている。勉強会をもって職員の意識向上を図っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調、希望、思いを大切に、利用者のペースに合わせた見守りやケアを柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と献立を考えたり、調理の下ごしらえ、下膳など出来る事をしてもらい、職員も一緒にサポートしながら食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉浴である。入浴日、順番、お湯の温度など利用者の希望にあわせた入浴の支援が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者と相談しながら計画を立ててドライブやこれまでの生活歴を踏まえた活動支援(食事作り、掃除、お手玉づくりなど)がなされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状態を見ながら近隣への散歩、買い物など一緒に出掛けている。季節ごとに花見やドライブに出かけて閉じこもらない支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門、玄関は施錠されていない。玄関にはセンサーをつけて外出時にはさりげなく声かけし、一緒について行くなど安全面に配慮した自由な暮らしを支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練、消火器の使い方など利用者、運営推進委員と一緒に実施している。8月には地元消防団、自治会、近隣住民にも呼びかけて実施予定である。また、夜間訓練、備蓄についても検討中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量、体重測定チェックがされている。献立もメニューが偏らないようにバランスの良い食事、個々の好みを反映した支援ができています。		利用者のカロリーの過不足や栄養の偏りを防ぐ為に、定期的に管理栄養士の点検やアドバイスが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔で換気もよく、音や照明にも配慮が行き届いている。皇室の写真や理念、毎日の日付に、(2008年、昭和83年、平成20年)と、わかりやすく表示されている。ソファ、テーブル椅子を置いて利用者が居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳みとフローリングの居室があり、ベッド以外は利用者のもので利用者の生活暦や個性が見られる居心地よい居室になっている。		